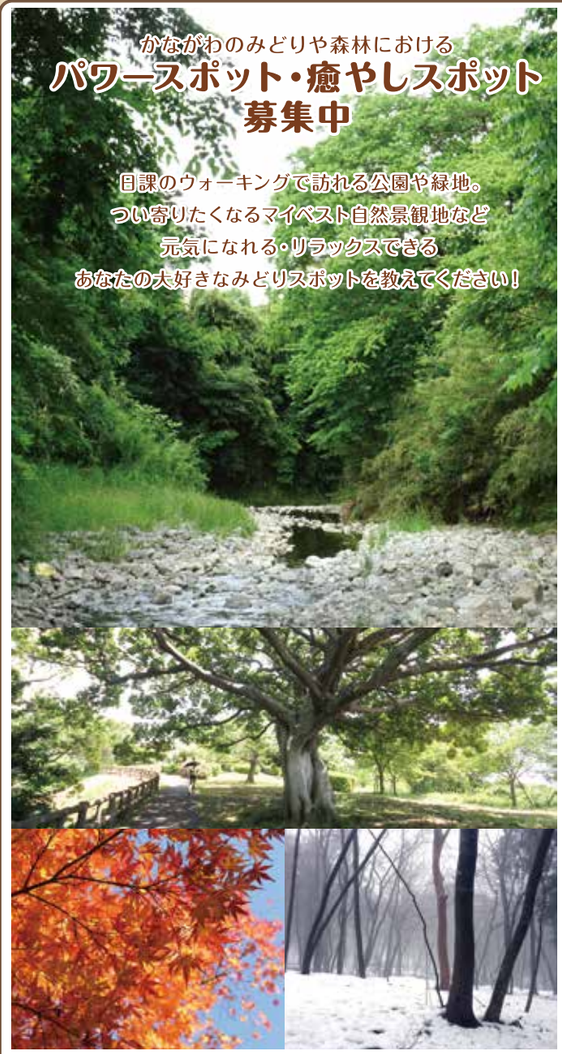


かながわのみどりや森林における
パワースポット・癒やしスポット募集中

日課のウォーキングで訪れる公園や緑地。
つい寄りたくなるマイベスト自然景観地など
元気になれる・リラックスできる
あなたの大好きなみどりスポットを教えてください！

■スポットの名称について・・・公表されている名称や俗称（地元で呼ばれている名称等）があれば記入してください。ない場合は、「くすのきの大木」「たけのこ林」など、応募者がつけたい名称を記入してください。

■所在地について・・・スポットの番地までご記入ください。番地が明確でない場合や複数にまたがる場合は、わかる範囲で構いません。

■その他・・・●パワーや癒やしを感じる理由、スポットの由来や応募者との関係　●応募期間外の季節を含め、スポットにかかる写真、地図など　●パワーや癒やしの効果が高い（と感じる）時期や、おすすめのまわり方や見方

※通年で（土・日・祝日のみでも可）一般開放されている場所に限定します。また、原則として神社仏閣などは除きます。

参考例/これまで応募いただいた内容

●毎朝の日課でウォーキングする河川敷はおススメです。美しい草原の中を走っているように感じます。

●近所の公園で、早朝の軽い体操を一日の始まりとしています。緑の中で身体を動かすと元気になります。

●年に1度は訪れたくなる夕焼けがきれいな田園地帯です。まさにインスタ映えします。

●緑地のボランティア活動で月に1度訪れています。自分の手入れによって自然は戻り、友も増え、毎回楽しくやっています。

<応募期間>10月20日（消印有効）まで

<応募方法>所定の「応募用紙」（財団ホームページ参照）に記載のうえ、郵送、メールまたは財団ホームページから応募してください。

<選考結果の発表>選考結果については平成31年3月に財団機関誌「ミドリ」等で発表します。

※応募された方には、財団オリジナルグッズを贈呈します。

<応募先・問い合わせ先>

（公財）かながわトラストみどり財団みどり企画課
〒220-0073
横浜市西区岡野2-12-20 神奈川県横浜西合同庁舎内
✉ midori@ktm.or.jp　Web http://www.ktm.or.jp
☎045-412-2525
担当：原、窪田

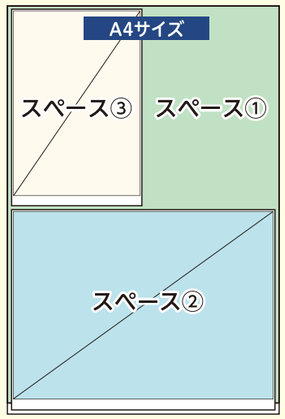
財団事業をご支援いただいている法人・団体様を紹介いたします！

法人団体会員など財団事業をご支援いただいている企業・団体様の広告を募集しています。日頃の社会活動を PR する機会としてご利用ください。掲載料は機関紙「ミドリ」の制作費の一部として使用します。

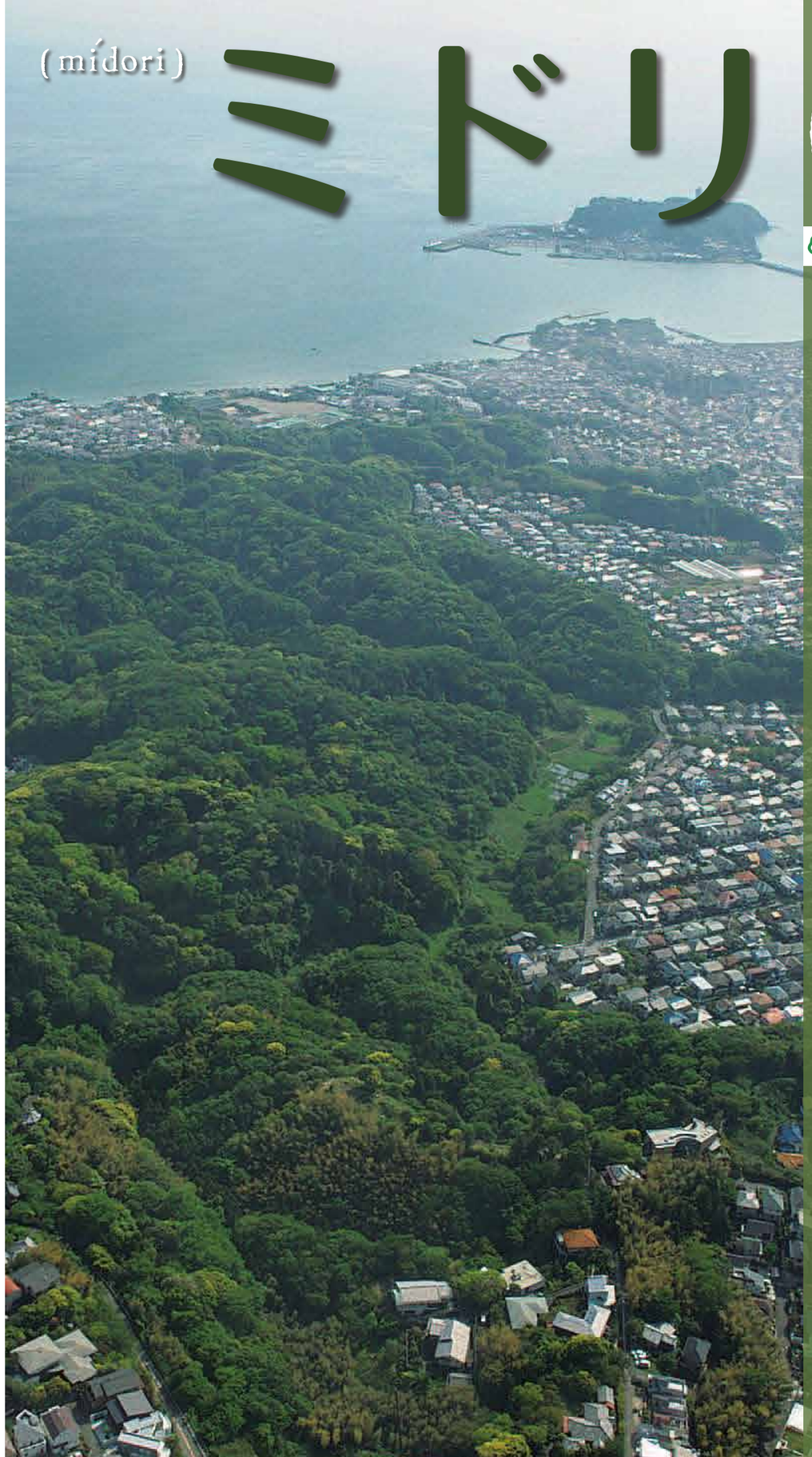
規格及び負担額（掲載料）

規格	サイズ（幅×高さ）	掲載料
スペース①	全面広告（180W×270H）	80,000円
スペース②	1/2広告（180W×130H）	40,000円
スペース③	1/4広告（88W×128H）	20,000円

年間契約の場合の掲載料は、3号分となります（1号分無料で4号に掲載）



公益財団法人 かながわトラストみどり財団
〒220-0073 神奈川県横浜市西区岡野2-12-20 ☎045-412-2525 ✉midori@ktm.or.jp Web http://www.ktm.or.jp
ミドリ(midori)No.110 秋号 2018　編集・発行：(公財) かながわトラストみどり財団　編集協力：渡部 尚久　デザイン：(株)アド・カジエンス　印刷：(株)大川印刷



(midori) ミドリ

AUTUMN
No.110
2018
公益財団法人 かながわトラストみどり財団

守った森を楽しい森に
―鎌倉広町緑地―
小網代の森 干潟、海の生き物たち
かなユリ チャレンジ

かながわの未来に、今できること

公益財団法人
かながわトラストみどり財団

1985年に発足以来、神奈川のみどりの保全と創造に関する様々な活動を展開しています。1万人を超える会員の支援や募金寄附、ボランティアの皆様の協力を受け、今ある自然環境を次の世代に引き継いでいけるよう取り組んでいます。

045-412-2525
midori@ktm.or.jp
@kanagawa_midori
facebook.com/ktm.or.jp
kanagawa_trust

CONTENTS
もくじ

自然へ一歩
小網代の植物たち
絵：小野寺 葉月 文：石川 紫穂 P.3

小網代の森
干潟、海の生き物たち
小網代野外活動調整会議代表理事
岸 由二 P.4

リビエラリゾートに感謝状
葛葉緑地 くずはの家 30周年 P.6

鎌倉広町緑地
守った森を楽しい森に
認定NPO法人 鎌倉広町の森市民の会
常任理事兼副理事長 望月 高明 P.7

「かなユリ・チャレンジ」
財団事務局 P.12

県の花“やまゆり”に思う
進和学園園長 出縄 雅之 P.13

久田緑地
「森からの贈りものプロジェクト進捗状況」
街の木ものづくりネットワーク代表理事
湧口 善之 P.14

財団主催イベント P.15

一里塚・四方山話 6
「正月の縁起物を探して」
神奈川森林インストラクター 川瀬 和江 P.17

平成29年度 事業報告及び決算報告

事務局だより
森へ行こう 告知 ほか P.18

TOYOTA SOCIAL FES！！
小網代の森で環境再生に取り組もう！募集

かながわのみどりや森林における
パワースポット・癒しスポット募集中

会員の皆さまへ

※転居先不明で返送されるケースが増えています。住所などの変更がありましたらご連絡ください。

※機関誌「ミドリ」は財団公式WEBサイト(http://ktm.or.jp)で読むことができます。個別の発送停止をご希望の方は財団事務局までご連絡ください。

表紙の写真

鎌倉広町緑地から江ノ島を望む

鎌倉市南西部にある鎌倉広町緑地は、2015年4月1日に「都市林」として開園しました。

記事▶P7へ

会員数＆寄附募金のお知らせ

トラスト会員を募集しています。
会員の皆さまからご紹介ください！

現在の会員数 (2018年8月末現在)

	普通会員	緑地保全支援会員
個人会員	3,823人	392人
家族会員	6,612人	620人
法人・団体会員	263人	26人
特別・名誉会員	320人	
計	11,018人	1,038人

遺贈による寄附について

近年、遺言による寄附について関心が高まり、これまでに遺贈を受けた公益事業を開始しております。遺言の財産受取人として、公益財団法人かながわトラストみどり財団をご指定いただけます。

相続税の非課税

相続された方が相続財産を、相続税の申告期限(亡くなってから10ヶ月)までに寄附された場合は、その寄附額は相続税が非課税となります。

「かながわトラストみどり基金」について

県内の優れた自然環境や歴史的環境を保全し、緑豊かな神奈川を次の世代に引き継いでいくために必要な資金を積み立てることを目的に、昭和61年に神奈川県に設置された基金です。この基金は緑地の買入れや財団の行う事業への支援など、「かながわのナショナル・トラスト運動」を推進する原動力となっています。

トラスト基金への寄附実績

累計額(2018年6月末現在) 14億849万8,442円

寄附者名 (2018年4月～6月) (敬称略)

相原造園研究会、一般社団法人神奈川県測量設計業協会、羽鳥亨、山本勝久、ライオンズクラブ国際協会330-B地区

トラスト募金箱設置による協力 (2018年4月～6月) (敬称略)

箱根観光船株式会社 箱根町港、公益財団法人ポーラ美術振興財団 ポーラ美術館

「かながわトラストみどり財団」への寄附

財団へ寄附をいただきましたのでご紹介します。誠にありがとうございました。

寄附者名(2018年4月～6月) (敬称略)

荒金 芙美代、池谷 享子、池谷 善博、池田 宏、大曽根 やよき、落合 光子、川北 暘子、北村 幸子、木村 哲三、熊谷 貴之、後藤 幹生、小林 マサミ、小峯 正、柴崎 えつ子、清水 紀彦、鈴木 史人、薗部 眞智子、髙橋 敏雄、辻 一男、東海 信興、富永 重稔、西ケ谷 茂夫、西ケ谷 孝之、濱尾 光吉、丸山 和弘、宮本 準司、森 要、山村 宣夫、山本 勝久、山本 八千代、与儀 達昭、㈱三進商会 相模原営業所、日産プリンス神奈川販売労組 執行委員長 橋本 勇介(匿名希望3名)

※掲載の承諾をいただいた皆さまをご紹介させていただいております。

絵：小野寺 葉月（おのでら はづき）
イラストレーター
小網代の森の植物絵葉書など
多数手がける

文：石川 紫穂（いしかわ しほ）
NPO法人小網代野外活動
調整会議理事

小網代の森 秋の風景

『小網代の森の紅葉はいつ頃ですか？』というお問い合わせを毎年たくさんいただきます。小網代の森でしっかり紅葉するのはヤマハゼだけ。しかし、ヤマハゼは真っ赤に色づきますが触るとかぶれてしまうこともあります。小網代の森できれいな赤はっぱを見つけても、けっして拾ってはいけません。

山一面の紅葉は見ることができませんが、小網代の秋にはぜひ見てほしい景色があります。

それは下流湿地一面にオギの穂波が広がる景色です。ヤナギテラスからエノキテラスまでの間、見事なオギの群落の中を歩くことが出来ます。キラキラと銀色に光るオギの穂波を見ていると、一時違う世界にいるような錯覚に陥るほどの美しさです。秋の午後、静かにオギの中に佇むと、自分だけの世界が広がっていきます。

小網代の森の秋の醍醐味。是非、体験しに来てくださいね。

緑地だより
小網代の森

干潟、海の生き物たち

NPO法人小網代野外活動調整会議代表理事 岸 由二

干潟を支える小網代の森

“小網代は森と干潟と海”という標語をご存知ですか。小網代の30年をこえる保全・管理活動でずっと利用してきた標語です。小網代は、すでに保全された森（浦の川の流域）だけでなく、下手に広がる大きな干潟、そこから相模湾に伸びる小網代湾（海）の3つの単位がつらなって、大きな自然生態系を形成します。森が干潟や海の生態系を支え、干潟が森や海の生態系をささえ、海が干潟や森の生態系をささえ、その全体が、小網代という拡大流域生態系なのだという意味ですね。

その拡大流域生態系を象徴するのはアカテガニ。カニたちは数十万匹の単位で森に暮らし、真夏の満月と新月の晩、河口の干潟で幼生を海に放します。海で1ヶ月間のプランクトン生活を送った幼生は夏の終わりに干潟に戻り、秋には子ガニになって森での暮らしを送ります。森と干潟と海の生態系のすべてに支えられ、小網代拡大流域を象徴する生きものなのです。

さて今回は、森と干潟と海のそんな相互の支え合いの中から、干潟の自然を支える小網代の森（保全された浦の川の流域生態系）の基本作用を紹介したいと思います。

河口域にひろがる小網代の干潟は面積3ha。下流の湿原とほぼ同じ面積に、150種をこえる希少生物を擁して、東日本随一のめざましい生物多様性を誇る生態系です。その賑わいを維持する大きな力を、小網代の森が発揮しているのです。

干潟を支える小網代の流域の大きな働きの一つは、適切に管理される森や、湿原や水系が、適度に養分を含む土砂を安定して供給し続けるという点にあります。干潟の周辺にアシ・アイアシの見事な湿地帯が広がり、礫地や、砂地や、泥地が安定した配列でひろがり、それらを貫いてミオ筋※が伸びるという干潟の基本構造は、森が供給する土砂と水、そして潮のリズムが相まってつくりあげているものです。

（※ミオ筋(みおすじ)（澪筋）干潟の引き潮(干潮)時に現れる川の流れ）

日常の真水や土砂の流出だけでなく、10年、20年に一度の豪雨による大量の土砂の流出も、チゴガニやオサガニなどの多様な干潟の動物たちの暮らしの場となる泥地の基盤を支えています。森や湿原の作り出す大量の有機物や、水系に染み出す鉄分をはじめとする豊かな栄養塩類も、干潟の多様な生物の生活の糧になっています。

▲ヤマトオサガニ

▲子を海に放つアカテガニ

▲干潟で見られるチゴガニのダンス。
この躍動感！

▲チゴガニを観察する来場者

小網代にお越しになられた方で、湿原のボードウオークの脇で褐色の泥と金属光沢の皮膜を目撃して、人工物の汚染かと仰天した人も、それが実は森の鉄分を利用するバクテリアの集団とその産物であり、干潟や海に大きな恩恵をおよぼす小網代の森の豊穣の象徴なのだと説明されて、さらに仰天された経験があるかもしれません。

また有機物の中には、森から流れ出す植物片ばかりではなく、食物連鎖を通して干潟や海の動物たちの餌にもなる陸ガニやイシマキガイの幼生をはじめとする生きものたちも含まれているのです。

そんな作用の中で、今回、特に強調しておきたいのは、森の生物多様性世界が発揮する自然浄化作用です。流域は雨の水を水系に集め海に運ぶ作用をする地形ですが、小網代の森へ近隣の住宅地からの家庭排水の一部も、合併浄化槽をへて流入しているのです。その排水がそのまま干潟に流入すれば、過剰に流入する有機物、窒素やリンなどが海の栄養化を促し、場合によっては干潟や海の生物相を貧弱にする赤潮などの誘因にもなってしまうのです。

これを防いでいるのが森を構成する微生物や動植物の発揮する総合的な自然浄化の作用です。森の植物も、土壌中の微生物も、湿原の多様多彩な動植物も、流入する排水の有機物、窒素やリンを分解・吸収して削減しています。窒素やリンは、森で餌をとり、空をゆく鳥や虫の体や、実って天空に舞う植物の種子などの成分となって、流域生態系の外に運び出されてゆくのです。

ここ数年、夏になると、小網代の海には、浜辺をピンク色にそめる赤潮が発生することがあります。これは、夜光虫という原生生物が大発生する赤潮です。大きな被害に繋がる可能性のあるケイソウ性の赤潮ではないのですが、森や湿原や水系の適切管理が困難になって総合的な浄化作用が低下したり、予想外の豪雨で土砂が大量に流れ出たり、干潟の保全がなかなか実現せず、干潟が発揮できる自然浄化力に劣化がおこってしまえば、やがて次の汚染の段階が海に及ばないとは言い切れません。

森・湿原・水系の健全を維持する管理作業を淡々とすすめるNPO法人小網代野外活動調整会議は、森の保全をとおして干潟の生物多様性を応援するばかりではなく、実は、海の健全、海の自然の賑わいもまた応援しているのです。

プロフィール

きし　ゆうじ
岸　由二

慶應義塾大学名誉教授・NPO法人小網代野外活動調整会議代表理事
専門は進化生態学。流域思考にもとづく都市、自然環境再生の理論、実践に携わる。

リビエラリゾートに感謝状贈呈

2018年6月22日

これまで㈱リビエラリゾートは小網代の森の保全活動に積極的に参加し、ホタルの夕べ期間に案内スタッフとして参加するほか、財団主催イベントへの協力や会員・寄附の継続的なご支援をいただいております。

このたび、6月22日(金)にシーボニアマリーナにおいて、木造帆船「シナーラ」の修復進捗報告のレセプションが行われ、これに併せてトラスト運動の推進と小網代の森の保全に貢献したことで、財団西ケ谷専務理事より木製感謝状を贈呈しました。贈呈後にはお礼と挨拶、小網代の森の魅力について紹介させていただきました。

▲ ㈱リビエラリゾート渡邊会長(右)と財団西ケ谷専務(左)

▲シナーラの模型

帆船「シナーラ」は20世紀初頭に英国で建造された帆船で、その骨組みはオーク材、デッキその他は全てチーク材で造られた完全な木製ヨットです。6枚のセイルを開き帆走する姿は、その美しさから「海の貴婦人」とも呼ばれています。

日本にやってきたのは1973年。様々な催しに登場し、その優美さを誇っていましたが、建造から約90年で大規模な修復(レストア)が必要となり、母港のシーボニアマリーナで修復が始まりました。

歴史的資産の保全とこれからも帆船として維持していくことについて㈱リビエラリゾートの投資姿勢はトラスト運動の事業理念に重なるところも多く敬服するところです。

ぜひ小網代の森を背に、風を受けてセーリングする歴史的木造帆船の優雅な佇まいを見せてくれることを期待し、修復を待ちたいと思います。

【木製感謝状の製作に㈱ラ・ルース、㈱アド・カジエンスの協力をいただきました。】

くずはの家20周年

自然観察施設・くずはの家　所長
高橋（たかはし）　孝洋（たかひろ）

今から33年前の1985(昭60)年4月、秦野市は環境庁から「快適環境整備計画」策定地域に指定され、「秦野アメニティ・タウン計画」を策定し、その事業のひとつとして1986(昭61)年に「葛葉川ふるさと峡谷整備事業」を立ち上げました。また、並行して、かながわトラストみどり財団と連携して、1987(昭62)年には、葛葉川沿いに残った緑地の地権者との間で緑地保存契約を結び、「かながわのナショナル・トラスト」による第1号指定緑地である「葛葉緑地」として保全することになりました。

その後、秦野市が現在の「くずはの広場の中央ゾーン」の土地を購入して、吊り橋や観察路の整備、植栽等を行い、市民が自然とふれあい、散策できる憩いの場として「くずはの広場」を整備しました。1998(平10)年、同地に丸太作りの管理・研修棟が建てられ、同年4月「くずはの家」がスタートしました。

▲「くずはの家」

くずはの家のマスコットキャラクター
「もりりん」

今年の「春のつどい」の企画では、「くずはの家開設20周年記念 昔の写真展」を行い、くずはの家が完成する以前の葛葉緑地周辺の写真や、建設中および完成直後の写真を展示しました。写真には、完成したばかりのくずはの家周辺の樹木が、まだまだ細く小さく頼りなげに写っています。毎日くずはの家に来てくずはの自然を見ている方の目には、その移り変わりはほとんど認識されませんが、改めて20年の月日を比較して見ると、大きな変化が目に映ります。現在、広場の木々はみな大木になりました。

広場の利用者数は、初年度は8,530人でしたが、2017(平29)年度には約18,000人になりました。また、葛葉緑地を支えるボランティアの「くずはの家えのきの会」や「くずはボランティアの会」も会員が増加し、大変充実してきました。

多くの皆様にご利用いただいているくずはの広場を、引き続き安全に、より楽しくご利用いただけるよう、維持し続けていくためには、「かながわトラストみどり財団」を始め、ボランティアの方々のご協力は欠かせません。これからも皆様のお力をお借りしつつ、くずはの広場を未来に繋げていきたいと思います。

守った森を楽しい森に 鎌倉広町緑地

認定NPO法人鎌倉広町の森市民の会
常任理事 兼 副理事長
望月（もちづき） 高明（たかあき）

▲鎌倉広町緑地（手前）と、相模湾に突き出た江ノ島

都市林として開園

2015年4月1日、都市公園「鎌倉広町緑地」は48.1ヘクタールの「都市林」として開園しました。

鎌倉市南西部には大規模な未開発の市街化区域が残され、その周辺はほとんどが住宅地になっており、細長く島のように残された緑豊かな緑地、それが鎌倉広町緑地です。

1996年、鎌倉市が作った「鎌倉市緑の基本計画」では、この緑地を評価し保全を図ることとしています。その後、緑地は都市公園「都市林」として保存をすることになり、この背景には行政を後押しした市民の緑地保全運動の高まりがありました。

2002年末に事業者の開発断念を受け、2003年、保全運動を推進してきた4つの市民団体が中心となり「鎌倉広町の森市民協議会」が発足しました。市民協議会は市の支援を受けて作られた市民ボランティアグループ（田んぼの会、畑の会、森の会、自然観察の会、散策路の会）を運営し、買い取られた緑地の里山復元活動、緑地保全活動を行ってきました。「守った森を楽しい森に」はこの時期にできたスローガンです。

鎌倉市は2003年に「鎌倉広町緑地基本構想」を作り、2012年には「実施設計」が出され、市民協議会は市民の立場からの意見反映を行いました。2013年から14年にかけて開園に向けての工事が始まり、市民ボランティアによって工事による自然環境への影響が調査されました。

2014年、鎌倉市は鎌倉広町緑地の管理運営に関し指定管理者制度を導入し公募を行いました。同年、市民協議会も名称を「NPO法人　鎌倉広町の森市民の会」と改め、「鎌倉広町緑地の指定管理事業に関すること」を加えた定款に変更しました。

2016年4月から現在に至るまで、市民の会は〔公財〕鎌倉市公園協会と共同事業体（鎌倉広町パートナーズ）を組み、この緑地の指定管理者として管理運営を行っています。

▲鎌倉広町緑地管理事務所

鎌倉広町緑地の今

先の基本構想の中に「市民参画による事業手法」があり、具体的には公園の管理運営に市民団体が計画の段階から参加でき、これにより市民の会は広町緑地の管理にかかわっています。

しかし、公園の管理はとても大変なことでした。少ないスタッフで、予算を執行し会計報告、事業報告、業者への業務の委託と調整、来園者対応、災害時の対応など、市民団体として初めてのことばかりでした。一方で、市民ボランティアは活動の基盤が安定し、従来の4つの祭イベント（植樹祭、田植祭、稲刈り祭、収穫祭）、3つの講座に加え、パートナーズに協力をして園内ガイド（広町里山さんぽ）を年間10回程度実施しています。

▲2017年 広町収穫祭の準備作業

2018年6月、市民の会の中に「環境保全委員会」を設置し、広町緑地の環境保全を目的とした環境保全計画をつくり、それを実施、点検、改善をするPDCAサイクルを基本とした事業を始めました。さらにこの委員会には、5つの市民ボランティアグループの活動が対立しないように、調整をする役割も担うことにしました。例えば、カエルたちが産卵を始める早春に、田植えのための作業を始めたい田んぼの会と、カエルの産卵場所を確保し観察をしたい自然観察の会の調整を図りました。

鎌倉広町緑地の生き物たち

鎌倉広町緑地では2003年から、後に自然観察の会になるグループが様々な生き物の観察を行い、年に1回それを報告集にまとめてきました。2017年で第15集まで発刊しています。

指定管理の仕事のなかに「自然環境のモニタリング」があり、ホタル、カエル類、ホトケドジョウ、水環境の4項目があります。現在、自然観察の会を中心に調査を行っています。ここでは第11集から第15集までの報告を基に、広町緑地の生き物たちを紹介しましょう。

増減が気になるホタル

広町緑地ではすべての水系でゲンジボタルとヘイケボタルが多く、クロマドホタルがわずかに生息しています。報告集と未発表の報告から2008年から2018年まで、一斉調査日4日間のホタルの観察数の合計を年平均すると、ゲンジボタルは435頭、ヘイケボタルは737頭でした。

一斉調査は毎年ほぼ同じ時期で2週間ごと、ホタルの生存期間を考えての調査です。2018年夏に高校生ボランティアの協力で、水路を覆うササや灌木を思い切って刈りましたので、来年は数が増えるのではと楽しみです。

▲広町緑地のヘイケボタル

なかなか増えないカエルたち

広町緑地では田んぼとそばを流れる御所川水系を中心に、ヤマアカガエル、ヒキガエル、シュレーゲルアオガエル、モリアオガエル、二ホンアマガエルが生息しています

2007年から二ホンアマガエルを除く4種の産卵した卵塊数をそれぞれの産卵時期に調査しています。例えば2016年までのデータではヤマアカガエルがの毎年十数塊以上でした。アライグマに捕食されている恐れがあります。カエルは毎年同じ場所に卵を産む傾向があるようで、2月になる前に昨年産卵した場所の浚渫（しゅんせつ）などの整備をしています。

▲ヤマアカガエル

愛嬌もの、ホトケドジョウ

広町で一番の愛嬌ものと言えばこのホトケドジョウです。生息数全体を把握することは難しく、時期、水温、網の入れ方などで観察数が変化します。ほぼ全域で観察できますが、川底が岩の多い御所川本流ではほとんど観察できません。川底が泥質で流れの緩やかな竹ヶ谷水系に多く生息し、一回の観察で稚魚や、2年目以上の成魚がや相当数観察できます。田んぼ周辺の水路では6cm超の大物を観察することもできました。おなかの膨らんだメスを調査採取した時は、たくさん産んでくれるようにそっと戻します。今後の課題は生活史を明らかにすることで、通年の細かな調査が必要です。

▲ホトケドジョウ（成魚）

広町はチョウの楽園

チョウに詳しい市民の会の会員が毎年チョウ暦を作成しています。これによると2016年には49種のチョウが広町緑地で観察されました。報告集からいくつかの記事を抜粋すると、

『マーキングをされたアサギマダラを発見、長野県御代田町を9月に発って19日で141㎞を移動した（2015年10月）』『貴重種であるゴイシシジミを観察した（2015年5月、2016年7月）』『南方系のクロコノマチョウが生息している（2012年~18年）』などです。

ゴイシシジミはタケやササの葉につくササコナツノアブラムシ、タケツノアブラムシを幼虫が捕食する純肉食性のチョウです。クロコノマチョウはイネ科の葉が食草です。近隣の高校生がボランティアで植樹地の草刈りに来てくれた時は、樹木の周りのオギやジュズダマの葉を一枚一枚返して卵や幼虫を確認してから作業をしました。広町緑地では数の少ない植物を食草としているチョウの保護に関心を払い、食草の保護管理に努めています。

多くのトンボが生息するトンボ池

開園の工事で竹ヶ谷に直径20mほどの調整池が作られました。私たちはトンボ池と呼んでいます。2016年の報告集では広町で長年トンボの観察を続けている地元の方からトンボについての報告をいただきました。それによると、広町で観察された種の数は22種、このうちトンボ池で観察されたものは19種でした。サラサヤンマとチョウトンボは神奈川県では絶滅危惧ⅠBに指定されています。2017年18年とトンボ池で観察された種の数が減少しているとの報告があり、原因と対処の方法を検討しています。

トンボ池とは別に、谷戸や水路上にはヤンマ類やアサヒナカワトンボが生息しています。夏に実施した水路を覆うササや灌木の刈り取りはトンボのためにも役立つはずで、来年のトンボ観察も楽しみです。

▲ヤマサナエ

多種多様な草花と樹木

自然観察の会植物班は、月に一回園内の植物調査をしており、その結果を花だよりとして作成し来園者に好評をいただいています。また、管理事務所前の花壇には園内各所から採取してきた草花を植えて、今観察できる草花の見本園として提供しています。園内草花に特別に珍しいものはありませんが、約300種の植物が冬の一時期を除き観察できます。観察の結果を2008年に「鎌倉広町緑地 花図鑑」としてまとめ、2012年に新版を発行し、一般の方々にもお求めいただいています。

群落をつくり一目でわかるものには、ハンゲショウ、タコノアシ、ミゾソバ、ヤブカンゾウ、オギ、アシ、ガマ、ヒメガマなどがあります。

広町緑地の樹木は、2003年の鎌倉市が行った自然環境調査によれば、稜線部にはスダジイの自然林（一部は萌芽再生林も見られる）、斜面にはイロハモミジやケヤキの自然林、さらに下がって谷間の湿ったところにはムクノキやエ

ノキの自然林が報告されていました。また伐採後の代償植生としてコナラ林、ミズキ林やサクラ林、植林された杉やヒノキ林もあり、現在でもその分布はほとんど変化がありません。注目すべき樹木には、管理棟そばのウルシの植林があり、実験的に萌芽更新を行っています。また樹齢200年を超えるであろうオオシマザクラの大木、三代にわたって生育しているキリの大木、姿の良いエノキの大木など、広町緑地のシンボルツリーとなっています。

▲2018年3月 早春の植物観察会

▲広町緑地のシンボルツリー オオエノキ

鎌倉広町緑地のこれから

広町緑地では幼児から小中学生までの子供たちに自然を体験してもらうことを最優先にしています。動植物の持ち込み、持ち出しは禁止ですが、自然に触れたい子供たちには柔軟に対応しています。外来種でもあるアメリカザリガニを手製の釣り竿でとる姿は広町緑地の風景にもなっています。

水辺の生き物観察会では実際に採取をしてからみんなで名前を確認して、もとの場所に返すといった活動をしています。

チョウやトンボを採集している姿を見かけたときは、観察したら離してあげるように声掛けをしています。

現在、近隣の小中学校の自然体験活動の場として活用していただいていますが、さらに受け入れを増やし、指導できるスタッフを増やす予定です。

これからも、このような自然体験活動のメニューを増やして、子供たちの自然環境学習の支援につなげたいと考えています。

▲2018年3月 水辺の生き物観察会

高校生以上の大人の方には里山復元や環境保全のボランティア活動を楽しく体験できるようにメニューを増やしてゆきます。ご高齢の方々の健康維持にも役立つように、園路の安全確保に十分注意をして維持管理をしています。さらに公園管理や自然環境の保全に興味関心のある人材を発掘し、スタッフとして迎える努力をしたいと考えています。

▲2018年7月 高校生ボランティア

鎌倉広町緑地は自然を放置せず過度な管理もしない、来園者に多様な自然を体験しリフレッシュをしていただく公園を目指して、「守った森を楽しい森に」するために日々の管理と運営に努めています。

プロフィール

望月（もちづき） 高明（たかあき）

認定NPO法人鎌倉広町の森市民の会
常任理事 兼 副理事長

住宅地の中の都市林 鎌倉市

鎌倉広町緑地 アクセスMAP

〒248-0033 鎌倉市津1133番地　☎0467-32-5112（鎌倉広町緑地管理事務所）

第3回報告　かながわトラスト緑地・ヤマユリ自生地再生チャレンジ始動

かなユリ・チャレンジ 活動報告

財団事務局

かながわのトラスト緑地でヤマユリの自地再生を行う取り組み、「かなユリ・チャレンジ」を昨年冬から開始しました。

この取り組みは、財団事務局に会員の方から一通のお手紙をいただいことから始まりました。

2016年7月の「津久井やまゆり園」での大変痛ましい事件のこと、ご自身も障害のあるお子様がいて、その子を施設へ預けることへの不安と葛藤、そして“やまゆり”という文字がニュースで出るたびに深く悲しみつつ、昔はどこにでも咲いていたけど今は見られなくなった美しい情景を思い出し、ヤマユリが咲き誇る里山を復活してもらえないかという内容でした。

この手紙がきっかけとなり、トラスト緑での調査や種の育苗、自生地環境の改善に取り組むことを柱に、活動をスタートさせました。

トラスト緑地での調査

神奈川県内にあるトラスト緑地数か所で職員の目視による調査や緑地で活動するボランティアへの聞き込みを実施したところ、群落はなく、通常では1～2株が所々に咲いているという状況でした。

※生育地保護のため、生育地や再生場所はご紹介できませんのでご了承ください。

▲今年も緑地内でひっそりと咲くヤマユリ

球根や種の採取と育苗（いくびょう）

ヤマユリ自生地を再生する取り組みとして、ヤマユリの育成と植生環境の整備を行うこととしました。ヤマユリの育成については、緑地から少量の球根と地下茎に着く木子（きご）を採取・育成するほか、タネをプランターに蒔き、そこで増えた球根を緑地に戻す試みを行います。この取り組みには、知的障害者の就労を支援する社会福祉法人進和学園に参加いただいております。ヤマユリは宿根草で3～5年育成してようやく開花する植物のため、ゆっくり長い目で活動することとしています。

自生地環境の改善

ヤマユリは風通しが良く湿り気の少ない半日陰の樹林地を好むようです。調査では藪や樹木に覆われた森の深部にはほとんど見られず、林縁部や散策路などの開けた草地で多く確認できました。しかし、林床に日が入る場所ながら、ヤマユリより大きく伸長するササや低木などが繁茂してしまうため定期的な草刈りが行われている場所が自生地として適しているようです。

このほかイノシシなどの食害被害もあるため、これらを受けにくい住宅地に囲まれた樹林地を対象として、計画的な草刈り等の維持管理を行っていく予定です。

指標となる植物

ヤマユリは緑地の林床植生の中でも、一際目立ち、人気のある植物です。また、ヤマユリ以外にも林床に光が入る草地は、多種多様な草木が見られ、そこの生息する生物とそれを捕食する生物などが集まるため、生物多様性の高い自然環境といえます。この「かなユリ・チャレンジ」を機会に改めて都市近郊にあるトラスト緑地の新たな価値の創造につながるよう事業を計画していきます。

最後に、ヤマユリと栽培協力いただく進和学園との深いつながりについて、進和学園理事長の出縄雅之（いでなわまさゆき）さんからお手紙をいただきましたのでご紹介します。

（本プロジェクトの内容は、これまで「ミドリ」No.107・109に掲載しています）

ヤマユリの育て方

●タネから育てる

球根に比べて、タネから育てると開花までに5～6年かかりますが、病気になりにくい球根を育てることができます。採取したタネは約1年間土中や保管庫に保存し、翌年秋に発根しているタネをプランター等に播種します。冬を越して春先にようやく発芽となります。

●球根のりん片等から育てる

秋頃に掘り出した球根のりん片を剥がし、プランター播きや適地に直播きします。球根の上根につく木子（球根の子ども）も育成させます。タネ同様に春先に発芽し、3～4年で開花しますが、やはり時間をかけての育成となります。

▲採取した球根（右）と木子（左）

県の花“やまゆり”に思う

私達が活動する湘南平山麓（さんろく）は、70年前までは、7月は馥郁（ふくいく）たるヤマユリの香りに包まれていました。その後10年を待たずに、何故か一気に減少してしまいました。

当時、小規模の知的障害児童入所施設〔定員40名〕であった進和学園の散策コースに懐かしい香りが無いことを、前理事長（兄）の出縄明はことのほかに寂しく感じていました。

昭和30年代の後半、未だ支援の場所の無い成人の方達数名が学園に身を寄せてきました。兄は、その方達の協力で、地域の宝物「湘南平」に県の花”やまゆり“を咲かせたいと植え付けを開始しました。努力は報われ3年後には見事に咲き乱れました。

▲昭和40年7月、ヤマユリとともに

残念ながら数年で、心ない人の手により消滅の憂き目を見ました。

このたび貴財団『かなユリ・チャレンジ』企画に参加させていただきますこと、往時の兄たちの夢を叶える絶好の機会となります。

そして、ここ湘南の地に咲き誇る”やまゆり“を、平成28年7月26日に惹き起こされた”津久井やまゆり園”の無念な事件による犠牲者の鎮魂と仲間として決してこのことを忘却しないことの証としたいと念願します。

社会福祉法人 進和学園 理事長 出縄雅之

2018 第3回報告　大和市　久田緑地

森からの贈りものプロジェクト進捗状況

これまで緑地管理で処分されてきた木々を、寄附の木工返礼品として生まれ変わらせる取り組みを昨年冬より開始してきました。木工を手掛ける(社)街の木ものづくりネットワークの湧口善之さんより、加工作業の途中経過の報告をいただきました。

【森からの贈りものプロジェクト寄附も受付中です。詳しくは財団事務局まで。】

久田緑地の緑地整備のなかで伐採された丸太の製材作業と、得られた木材から作品を作るための加工作業が進行しています。今回は、額縁の材料となるムクノキの加工の様子を報告いたします。

一筋縄ではいかない木材たち

製材された木材には、元々の木の形として曲りや割れ、傷みなどがあり、また乾燥に伴う収縮や反り、歪みがあります。そうした木材に加工をくわえて、最終的には額縁のフレームに使えるように真っ直ぐな角材に仕上げます。

そのために最初に行うことは、元の板からどう部材を得るかを検討し、大まかな形にカットする荒木取（あらきとり）という作業です。木取では、木目などからその材のクセを読み不具合が出ないようにすること、その上でできるだけ無駄なく材を活かすことを意識します。原板をよく見て木の魅力を引き出すことが大切です。

木の個性、魅力とは

木材の表面に見られる木目は単なる模様ではなく、その木材が内包している力の流れを表しています。流れに添って木取された木材は、お箸や爪楊枝のように、細く加工しても強さや真っ直ぐさが保たれます。それに対して流れに沿わずに作られた木工品は、一見形は同じでも、簡単に折れてしまったり後々曲がってしまうなど、不都合を生じることもあります。

◀加工前のムクノキの原板
左から2番目の木材には、剪定された枝の切り口から始まった腐朽が見られる

曲がったり膨らんでいる原板は、曲がっている部分で一度カットして、できるだけ木目が通るようにします。その後、帯鋸（おびのこ）を使って最終的な仕上がり寸法より一回り大きく切り出した木材に軽くカンナがけをします。

▲切り出された木材

削りたてのムクノキは黄色味が強いですが、しばらくすると柔らかい茶色に変化していきます。

▲ここから柔らかい茶色へ変化していく

大きな原板から切り出して小さくなった木材は、そのまま一気に加工するのではなく、この状態でしばらくのあいだ養生しておきます。そうするとまた木材が内包していた力が発散され、乾燥も進み、歪みが出てくるため、焦らずに十分に歪みを出させてから最終的な寸法になるよう加工していきます。慎重すぎるように思われるかもしれませんが、木材は加工してからも狂う（変形する）性質をもっています。今回のムクノキなど多くの広葉樹は、スギやヒノキのような針葉樹に比べてはるかに狂う力が強いものです。面倒なようでも幾度かに分けて加工を進めるのが望ましいのです。

（本プロジェクトの内容は、これまで「ミドリ」No.107・109に掲載しています）

プロフィール

湧口（ゆぐち）　善之（よしゆき）

建築家・木工家・緑地コンサルタント
(一社)街の木ものづくりネットワーク(マチモノ)代表理事

2018年度

2019年4月からのイベントは
NO.112(3月発行)に掲載します。

かながわトラストみどり財団

主催イベント

〔共通事項〕
徒歩　※の数が多いとコース難易度が上がります
高低差

※写真はすべてイメージです

自然観察＋体験　約2km・ほぼ平坦

12月22日(土) 正月飾り作りと里山植物観察

午前の部　9:00〜12:00
午後の部 13:30〜16:30

会員 1,000円
一般 2,000円
学生(小〜大) 1,500円

【講師】久田緑地くらぶほか
【集合】小田急線 桜ヶ丘駅改札前 9:00または13:30

各10人/計20人(抽選)　受付：10/1〜10/31

【コース】桜ヶ丘駅〜久田緑地〜(会場)〜桜ヶ丘駅
◆久田緑地で植物観察を行いながら正月飾りに使う植物を採取し、会場ではしめ縄を作り、飾りつけを行います。

自然観察　約6km・約200m

2019年 1月26日(土) 大井町で箱根火山の痕跡観察と酒蔵見学

9:30〜15:00

会員 無料
一般 1,000円
学生(小〜大) 500円

【講師】おおい自然園園長 一寸木 肇 氏
【集合】JR御殿場線 上大井駅改札前 9:30
※御殿場線はICカードが利用不可。必ず切符で乗車を。

30人(先着順)　受付：11/1〜

【コース】上大井駅〜きらめきの丘おおい〜四季の里(昼食休憩・直売所)〜農村公園〜石井醸造㈱(酒蔵見学)〜上大井駅　※小雨天決行
◆火山噴火の痕跡を観察。野菜の直売所と、創業明治3年の代表酒『曽我の誉』の石井醸造を見学します。試飲もできます。

野鳥観察　約4km・ほぼ平坦

2019年 1月14日(月・祝) トラスト緑地の泉の森で野鳥観察会

10:00〜14:00

会員 無料
一般 1,000円
学生(小〜大) 500円

【講師】(公財)日本鳥類保護連盟 専門委員 坂本 堅五 氏
【集合】相鉄線 相模大塚駅 10:00

30人(先着順)　受付：11/1〜

【コース】相模大塚駅〜泉の森〜しらかしのいえ(昼食休憩)〜ふれあいの森〜大和駅
【持ち物】防寒着、双眼鏡　※雨天中止
◆「ふれあいの森」で冬鳥のカモ類やカワセミを観察します。また双眼鏡の使用方法についても詳しく説明します。

野鳥観察　約5km・ほぼ平坦

2019年 3月2日(土) 早春の相模川でバードウォッチング

9:30〜15:00

会員 無料
一般 1,000円
学生(小〜大) 500円

【講師】相模原市立博物館 学芸員(生物担当) 秋山 幸也 氏
【集合】JR相模線 下溝駅改札前 9:30

30人(先着順)　受付：1/1〜

【コース】下溝駅〜三段の滝広場〜磯部頭首工〜下磯部大凧広場〜座架依橋付近〜相武台下駅　徒歩：約4〜5km　【持ち物】防寒着、双眼鏡　※雨天中止
◆春まだ浅く、冬鳥が落ち着かなくなる季節の変わり目に、相模川中流で野鳥を観察します。下溝駅から相武台下駅までの区間を歩きます。

地域のみどりを考える集い　湘南グリーンコネクション 2018

11月4日(日) 講演「生物多様性緑化の勧め」

開場 13:00
13:30〜16:30
参加費 無料

【講師】倉本 宣 氏(明治大学農学部教授)
【場所】茅ヶ崎市分庁舎 コミュニティホール 6階大集会室 2

100人(先着順)　受付中

◆生きものから、その地域の人々の営みを見ることができます。
一つの地域の人々の暮らしが多様であるように、地域の自然環境の中に見られる生きものも様々です。本講座では人々の生活と共に息づく生きものの世界を学びます。

○生きものが持っている遺伝子について
○地域の中で関わり合って生活している植物のまとまり=植生とその種の特徴について
○地域の生態系を構成する植生の特徴について
○一つの流域における地域-生態系-植生-種-遺伝子のつながりとその維持管理の技術について

申込方法　財団主催イベント・湘南グリーンコネクション

【申込先】(公財)かながわトラストみどり財団　みどり企画課
〒220-0073 横浜市西区岡野2-12-20 fax 045-412-2300 ✉ midori@ktm.or.jp web www.ktm.or.jp

【申込方法】イベント内容をご確認の上、●参加を希望するイベント名 ●参加希望者全員の氏名・住所・電話番号 ●会員の方は会員番号を明記して、**FAX・Eメール・ハガキ・財団WEBサイト**にてお申し込みください。

【雨天の場合】原則として小雨天決行です。集合場所にて講師がコース変更等を判断します。
【お　願　い】**集合時間になりましたら出発します。遅れないようご注意ください。** コース内のバス代は各自負担となります。
【小網代の森イベント実施の有無】**雨天中止。雷・波浪注意報発令でも中止となる場合があります。**

2018年度
2019年4月からのイベントは
NO.112(3月発行)に掲載します。

森へ行こう! 活動に参加しよう!

森林ボランティア

〔共通事項〕
- 自家用車での参加可
- 温泉入浴あり
- ※定員になり次第締切

県民参加の森林づくり活動

※写真はすべてイメージです

岩　真鶴町 真鶴町県行造林

10月24日(水) 間 伐

予備日:なし

【集合】JR・小田急線
小田原駅西口 8:30※

100人(先着順)　受付中

※専用バスで移動 ※自家用車駐車場はありません

【行程】小田原駅西口(専用バスで移動)⇒ 現地 ⇒小田原駅西口

鍛冶屋　湯河原町 町有林

10月31日(水) 間 伐

予備日:なし

【集合】JR 湯河原駅 8:30※

100人(先着順)　受付中

※専用バスで移動 ※自家用車駐車場はありません

【行程】湯河原駅(専用バスで移動)⇒ 現地 ⇒湯河原駅

堀山下　秦野市 全国植樹祭地

11月10日(土) 枝 打

予備日:なし

【集合】小田急線 秦野駅 A南口 8:30※
または B戸川公園パークセンター 9:00
【共催】秦野市

50人(先着順)　受付中

※Aは専用バスで移動 ※自家用車を利用する場合は秦野戸川公園駐車場(有料)へ

【行程】A秦野駅南口(専用バスで移動)⇒ B戸川公園パークセンターと合流 ⇒ 現地 ⇒ 戸川公園パークセンター ⇒ 秦野駅南口
◆ボランティア発表会開催

塚原　南足柄市 塚原水源林

11月21日(水) 間 伐

予備日:なし

【集合】小田急線 開成駅西口 8:30※
【共催】神奈川県森林組合連合会

100人(先着順)　受付中

※専用バスで移動 ※自家用車駐車場はありません

【行程】開成駅西口(専用バスで移動)⇒ 現地 ⇒ 開成駅西口

曽屋　秦野市 弘法山公園

12月15日(土) 除 伐

予備日:なし

【集合】小田急線 秦野駅南口 8:30※
【共催】秦野市

100人(先着順)　受付:10/1～

※専用バスで移動 ※自家用車駐車場はありません

【行程】秦野駅南口(専用バスで移動)⇒ 現地 ⇒ 富士見の湯 ⇒ 秦野駅南口　◆昼食後、富士見の湯入浴可

麻生区　川崎市 栗木山王山特別緑地

2019年 1月19日(土) 竹林整備

予備日:なし

【集合】小田急多摩線 栗平駅南口 8:30
【共催】(公財)川崎市公園緑地協会

100人(先着順)　受付:11/1～

※徒歩で移動 ※自家用車駐車場はありません

【行程】栗平駅南口(徒歩で移動)⇒現地 ⇒ 栗平駅南口

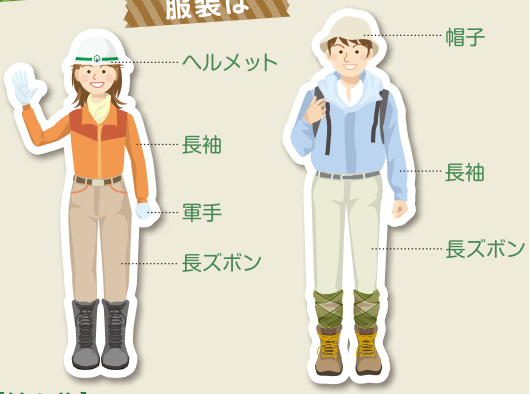
申込方法　県民参加の森林づくり

【申込先】(公財)かながわトラストみどり財団　みどり森林課
〒220-0073 横浜市西区岡野2-12-20
fax 045-412-2300　✉ midori@ktm.or.jp
web www.ktm.or.jp

【申込方法】活動内容をご確認の上、●参加希望日 ●参加希望者全員の氏名(ふりがな)・住所・電話番号 ●森林整備活動登録番号をお持ちの方は登録番号を明記して、**ハガキ・電話・FAX・Eメール・財団WEBサイト**にてお申し込みください。

【荒天の場合】予備日のある場合は延期、ない場合は中止となります。
【実施の可否の確認方法】実施日前日の18時以降に、電話(045-412-2255)でご確認ください。録音テープでご案内します。

森林づくりのための服装は



【持ち物】
お弁当・水筒・タオル・ノート・筆記用具・ハンカチ・ティッシュペーパー・虫除スプレー・雨具など
〈ヘルメットや作業道具は財団で用意します〉

一里塚・四方山話 6

正月の縁起物を探して

各地の森林や緑地で活躍する森林インストラクターから自然環境にまつわる、さまざまな話を聞く連載企画。一里歩いて一里塚で休息をするような、そんな肩肘張らないお話です。

神奈川県森林インストラクター
川瀬 和江

お正月の縁起物として、千両や万両があるのは有名ですが、実は一両から十両、百両そして億両まであるそうです。以前、「ミドリ」誌でも紹介していましたね。

中国では赤い色が金運に通じていること、そして真冬でも青々した葉は永遠の生命につながるということで縁起物になったそうです。私もこの縁起物を見つけてみたくなり、ある年の正月休みに近所の高麗山へ探しに行きました。

センリョウは途中のお宅の庭先で確認。一両はアリドオシと言われてますが、平塚では近縁種のニセジュズネノキが高麗山の北斜面に自生しています。十両のヤブコウジは沿道脇の足元に沢山ありました。百両のカラタチバナは数が少ないので見つけると嬉しいです。マンリョウは鳥が種を散布するため、あちこちで確認できました。この時は億両(ミヤマシキミ)の存在を知りませんでしたが、丹沢方面の林下に自生しているそうです。また、やどりき水源林でも観察できるそうです。

カラタチバナ(百両)
サクラソウ科 / ヤブコウジ属

ニセジュズネノキ(一両)
アカネ科 / アリドオシ属

ところでこの縁起物、地方によって一両と言われる植物が違います。現地にある植物が選ばれているからでしょうか。信州ではコケモモ、山間部ではアカモノ、日本海側ではツルアリドオシなどが一両と呼ばれています。色々な人にたずねてみると面白いですね。

『あなたの故郷での一両は何ですか？』

平成29年度 事業報告及び決算報告

かながわのナショナル・トラスト運動や県土緑化運動を一層推進するため、寄附金、募金や会員の獲得による資金調達の強化など、県民、企業、団体及び行政との協働を基本方針として各事業に取り組みました。

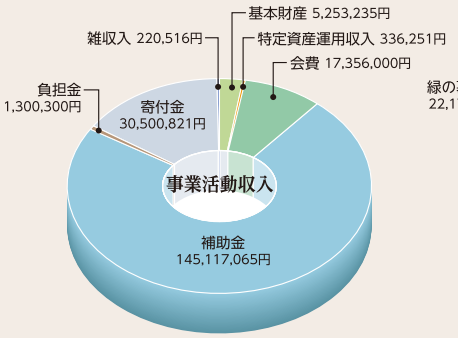
普及啓発事業	WEBサイトや機関誌「ミドリ」による情報発信のほか、自然観察会等の開催を通じて、「かながわのナショナル・トラスト運動」の普及啓発を行いました。
地域緑化活動事業	各地区推進協議会主催による事業や市町村が行うイベントへの参加、地域で活躍する市民団体「みどりの実践団体」の育成や助成によって地域の緑化推進に努めました。また、29年度解散の地区推進協議会に変わる新たな組織作りに取り組みました。
緑地保全事業	緑地所有者との保存契約の継続や拡大、市町村が行う緑地指定事業への助成及び緑地の剪定などの樹木管理や土留め柵設置等の維持管理を実施しました。
県民参加の森林づくり事業	森林ボランティア活動の推進、森林インストラクターの養成、成長の森の造成や新たな活動フィールドの準備など、県民の森林づくりへの参加促進に努めました。
緑の募金事業	教育機関、市町村等と連携して緑の募金運動を推進し、学校や地域の緑化活動の支援、緑化運動・育樹運動ポスター原画・標語コンクールの実施及び緑の少年団の支援を行いました。

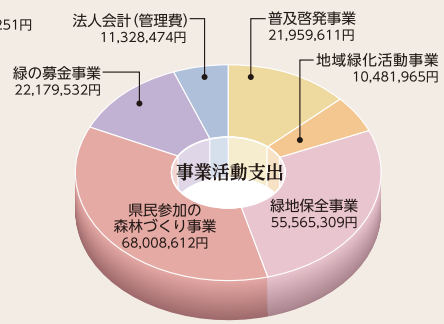
平成29年度 決算報告

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

事業活動収入	2億8万円
事業活動支出	1億8,952万円

収支差額1,056万円であり、その大半は当年度に受けた大口寄附等の収入であり、今後特定資産として計画的に取崩し、公益事業の財源として管理及び使用していきます。





所得税・住民税の優遇措置について

（公財）かながわトラストみどり財団への会費や寄附は確定申告をすることによって、所得税、住民税の還付を受けることができます。ただし、県民税や市町村民税の控除は各自治体によって異なります。なお、控除額の計算は①か②のいずれかを選択することができます。

①税額控除（所得税）

❶所得税の減少分
（年間の公益法人等への寄附金総額−2,000円）×40%

❷住民税の減少分
県民税（年間の公益法人等への寄附金総額−2,000円）×2%

（❷の例）：横浜市税
（年間の公益法人等への寄附金総額−2,000円）×8%

②所得控除

（年間の公益法人等への寄附金総額−2,000円）の金額を、その年分の所得から控除するもの。

相続税の非課税

相続された方が相続財産を、相続税の申告期限（亡くなってから10か月）までに寄付された場合は、その寄附額は相続税が非課税となります。

県民参加の森林づくり事業

ボランティア参加による森林づくり活動や小中高校生の森林体験学習を行うほか、森林インストラクターの養成及び派遣の支援など、県民の森林への理解や森林づくりの参加を促進する事業。

財団事業にご支援をお願いします

財団は県内各地において、かながわのナショナル・トラスト運動及び県土緑化運動を行い、自然環境、歴史的環境の保全と緑化の推進を図っています。みどり豊かな神奈川にすることを目的に、これからも活動に取り組むため、財団の事業へご支援をお願いします。

普及啓発事業

かながわのナショナル・トラスト運動及び県土緑化運動を多くの皆さまに知っていただき、活動に協力していただくための事業。

小網代の森の観察会

緑地保全事業

緑地所有者との保存契約を行いトラスト緑地の維持管理活動等を行うほか、小網代の森などトラスト緑地の保全を支援する事業を実施。

箱根小塚山緑地の自然再生活動

地域緑化活動事業

地域の市民団体を支援するほか、地域に根差した活動を行うため地区推進協議会を設置。

みどりの実践団体研修会

緑の募金事業

県内で緑の募金運動を展開し、その募金は学校や公共的な場所の緑化、丹沢への植樹等に活用される。

同封の振込用紙の取扱いについて

①本用紙は「キャンペーン用振込用紙」です。会員会費や緑のグッズ募金の振込には使用しないでください。
②振込の内訳に記載がない場合は、財団事業への寄附とさせていただきます。
③領収書等礼状の不要、ミドリ等の掲載不要(匿名希望)の方は通信欄に☑をお願いします。

（公財）かながわトラストみどり財団への寄付金は、所得税・法人税の控除が受けられます

事務局だより

お便り紹介

イベントや機関誌ミドリの感想など、
お寄せいただいた中から一部を紹介します。

2018年8月18日自然観察会
横浜の涼をもとめて
～陣が下渓谷とブルーベリー摘み～

植物名の由来や歴史などにも詳しく解説いただき、植物名にあまり関心がなかった私も、初めて熱心にメモをとっている自分がいて、インストラクターのわかりやすい解説に引き込まれていました。（髙山さまより）

➡ インストラクターの豊富な知識量と話術が発揮された観察会でしたね。（事務局）

2018年8月18日自然観察会
ヒトといきもののお付き合い。
スズメバチ講習会

生きたアシナガバチをケースで見せていただいたり、スズメバチが怒っている時は、口をカチカチしながら飛び方も違うなど片田先生のお話は興味深く時間が過ぎるのがあっという間でした。（杉山さまより）

➡ スズメバチ対応は、野外活動で必ず注意しなければならないことで、事務局も大変勉強になりました。これからの企画に役立てていきたいです。（事務局）

家族でやどりき水源林の森のお手入れ体験！

平成19年度成長の森で植樹した「森」は早くも11年目となり、混み入ってきたので光が入るようにする必要があります。元気で大きな「森」になるように、少し木を伐って空間空ける「森のお手入れ」を家族みんなで体験してみませんか？

11月17日(土)
8:30～15:30

【集合】小田急線 新松田駅 北口 8:30
【講師】神奈川県森林インストラクター

10家族(先着順)　受付中～11/3まで

※作業場所はやどりき水源林平成19年度成長の森です。
※山の中を歩きます。トレッキングシューズ、もしくは履きなれた運動靴でお越しください。
※飲み物、昼食はご持参ください。

午前中に「お手入れ」として間伐（成長して混んできた木を間引き、元気な木がさらに成長するためのスペースを作ること。）を行い、昼食後は、間伐した木を使って簡単なクラフトを行います♪
駅から現地までの送迎は路線バスを利用します。
（バス代は各自ご負担ください。片道620円（子供半額）、特別に水源林ゲート前まで送迎。）

申込先

NPO法人かながわ森林インストラクターの会
〒243-0018　厚木市中町2-13-14
サンシャインビル6F 604号室

Email：k-inst0981@friend.ocn.ne.jp
参加者全員のお名前、お子様の年齢、住所、電話番号、イベント名「家族で森のお手入れ体験」を記入の上、往復はがき、又はE-mailにてお申込下さい。
締切後、詳細案内をお送りいたします。

みんなとだから、できること。

TOYOTA SOCIAL FES!! 2018

参加者募集中!!

トヨタのハイブリッドカーAQUA発の環境活動、AQUA SOCIAL FES!!
6年間で約7万人が参加したこの活動が、もっと地域を、もっと未来を良くするために変わります。

神奈川県：かながわ環境保全プロジェクト
第2回：小網代の森で環境再生に取り組もう！

■小網代の森で外来植物のセイダカアワダチソウ抜きを参加者全員で行います

2018年10月21日(日)10:00～11:30(受付9:30～)

集合場所：小網代の森 引橋側入口
（三浦市三崎町小網代）
※京急三崎口駅からご案内いたします。

ENTRY KIT 軍手・タオルを贈呈！

募集人数：150人
募集期間：2018年9月22日(土)～10月15日(月)
申込窓口：webサイト「カナロコ・神奈川新聞社からのお知らせ」内「トヨタソーシャルフェス」申し込みフォームより応募
http://www.kanaloco.jp/company/toyota_social_fes2018/
申し込みに関するお問い合わせは 03-3544-2507 神奈川新聞社 東京支社（平日10時～17時）

参加条件：
小学生未満の方は、ご参加いただけません。
中学生以下の方は、保護者の同伴が必要となります。
20歳未満で保護者の同行がない方は、保護者の同意書が必要となります。

注意事項：
お申し込み多数の場合は抽選とさせていただきます。
駐車場のご用意はございませんので、公共交通機関でお越しください。
動きやすく汚れてもよい服装、運動靴でお越しください。帽子、長袖シャツ、長ズボン、長靴（登山靴のようにズボンと靴の間に隙間のないものは可）、着替え、雨具（合羽と傘両方）、お飲み物、同意書（20歳未満の方）をお持ちください。
小雨決行ですが、荒天の場合は順延（11月18日）とさせていただきます。

主催：神奈川新聞社／共催：NPO法人鶴見川流域ネットワーキング
後援：NPO法人小網代野外活動調整会議、公益財団法人かながわトラストみどり財団